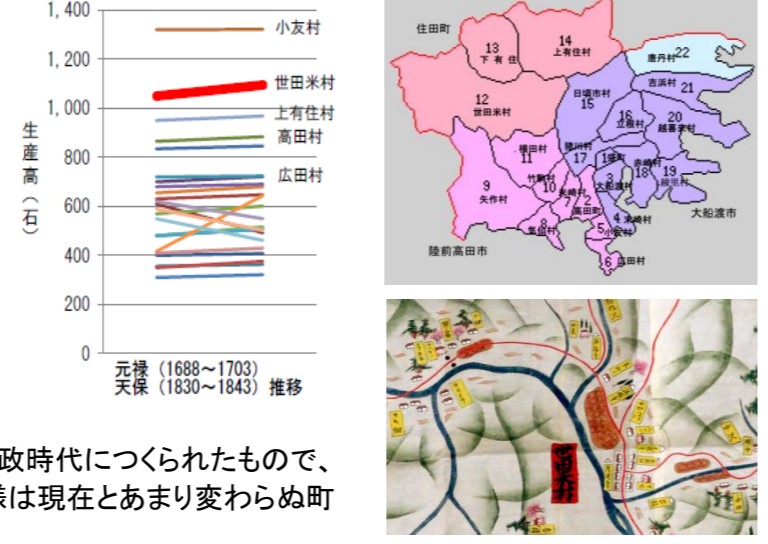
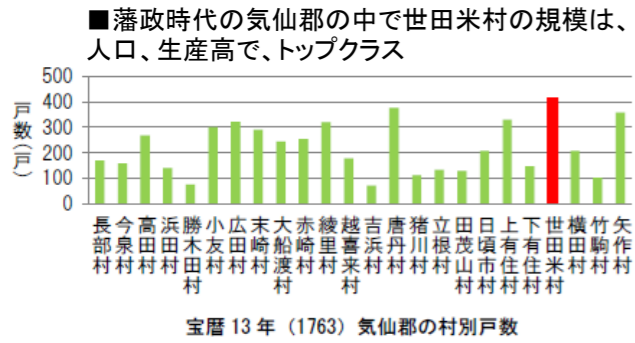


世田米の歴史・町場の変遷・歴史的資源

大切にしたい宿駅としての歴史

江戸時代に拓かれた五街道(東海道、中仙道、日光街道、奥州街道、甲州街道)から、各地へつながる街道を脇街道と呼びます。内陸の水沢から、海岸沿いの盛を結ぶ道筋は、かつて「盛街道」と呼ばれ、主要な交通路です。仙台藩には120余りの宿駅があり、その中で内陸部と沿岸部を結ぶという重要な役割を果たしたのが世田米駅である。物品販売などに従事する人たちも集まり、商品物資の集散地として栄えました。現在も、盛街道、高田街道、遠野街道の交差点にあたり、特徴的な町家と土蔵群の町並みが良く残っています。

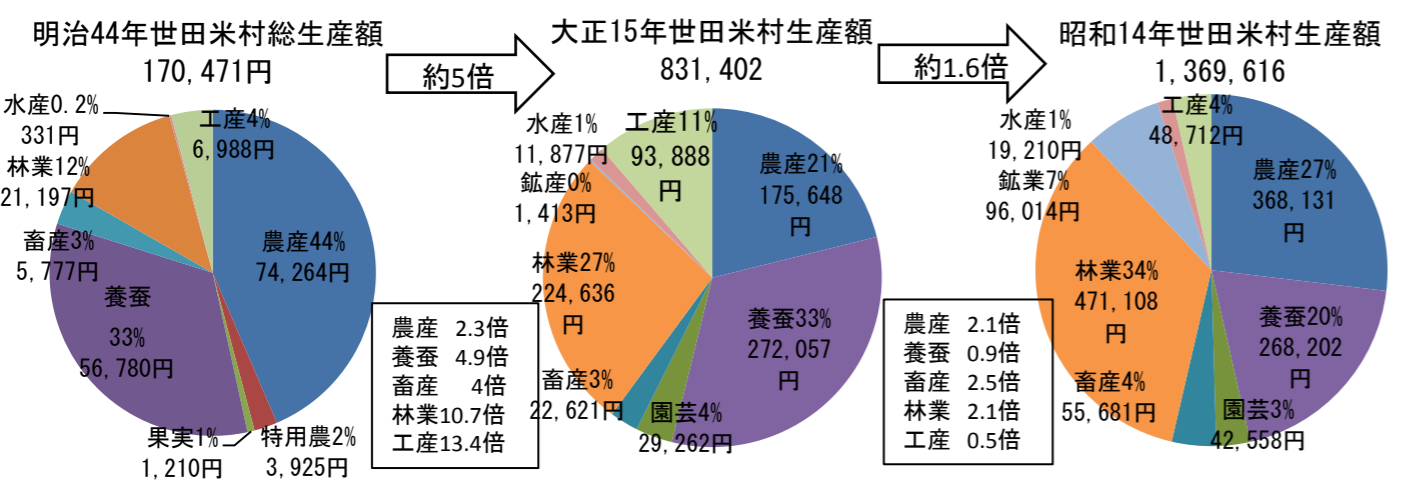


現在も残る世田米の町割り

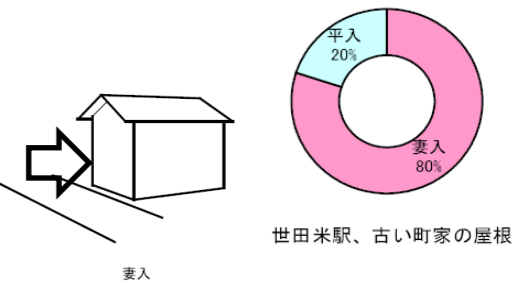
右図は、世田米村絵図は文政5年(1822)9月の藩政時代につくられたもので、盛街道がつながるT字路を挟んで、南北に伸びる様は現在とあまり変わらぬ町並みを意識させます。右下の絵図は明治8年(1875)頃の地割図です。北側町の入口がカギ型に曲がっていること、通りの中央に水路が描かれた貴重な資料。昭和41年(1966)調査の世田米駅の公図を同じ縮尺で比較すると、街道筋沿いの間口幅はかなり正確に一致し、現在でも当時とほぼ変わらぬ地割りが残っていることがわかります。



世田米の近代化を支えた産業



世田米の町並みで特徴的な景観の1つが、町家の妻入屋根の並び。現在、古い形状を残している町家の8割が妻入りです。

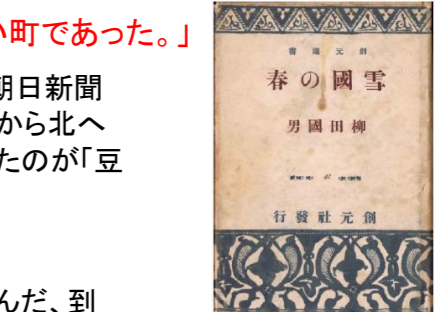


柳田國男の見た世田米

「其れにつけても世田米は感じの好い町であった。」

柳田國男は大正8年(1919)12月、貴族院書記官長辞任し、同9年8月東京朝日新聞社客員となり、最初に明治三陸大津波25年後の沿岸を仙台から始まり、南から北へ八戸の旅に出ます。その旅先の宿々で文章をしたためて、新聞に連載されたのが「豆手帖から」として「雪國の春」に掲載されています。旧暦のお盆の8月15日に世田米を訪れ、7番地の山内旅館に宿泊します。

- 世田米駅の印象
- 「基につけても世田米は感じの好い町であった。」「山の裾の川の高岸に臨んだ、到底大きくなる見込みの無い古驛。色にも形にも旅人を動かすだけの統一がある。」
- 町家の特徴
- ・板葺の、たつぷりとした妻入の家
 - ・何れも障子の立つ二階に手摺を付け
 - ・屋の棟には勝男木の名残と見える単純な装飾。道路に面した一端だけに一様に附てある。
- 町並みのルール
- ・貧富の差は有っても家の造りは全く1つである。



古写真による変遷



旧菅野家

初代伊太郎は、明治36年(1903)7月に父林助よりこの土地建物を贈与。県議会議員を務めたほか、馬主や森林地主、また製糸場等の設立など実業家としての面もありました。大正15年(1915)10月5日に死亡したため、長男の弥之助が家督相続することとなり、翌昭和2年に二代目「伊太郎」に改め、菅野家の当主となります。県議会議員、公安委員長等を務めるとともに、家業も繁栄させました。旧菅野家は、大正10年(1921)当時、帝国生命の代理店の他、砂金などの金銀冶金商、米雑穀商、養蚕繭仲買人の看板を上げ、店舗兼住まいとして使われていた。使用人は番頭以下10人ほど、他に耕作人2人、米雑穀販売等の番頭2人、女中2人等がいたという。



菅野邸正面・明治期

中心地域活性化基本計画

全体の方向性

歴史的な町並みという残された空間的な資源を手掛かりに、地域社会の活性化、再生を図り、総合的な町づくりを進めます。町の在り方は、「其につけても、世田米は感じの好い町であった」と、柳田國男が訪れてから95年、「町を作る人々」として看破した世田米の在り方を、活かしていきます。

全体構想

気仙川沿いの谷部に半円状に広がる平坦部に、特徴的な地区がそれぞれあり、これを総体的に捉え、今回、再生まちづくりの中核となる旧宿場町の歴史を持つ世田米駅周辺地区を中心とした町並み保存と活用を図ります。また、このなかで地域の核施設として期待される住民交流拠点施設を整備し、まちづくり機運を高めるとともに、県内外に発信します。

- ・住民の住むことのこだわり、誇りが持てる
- ・観光目的も含めた来訪者の増大と交流
- ・雇用創出と定住化の促進
- ・森林資源の活用場の創出

最終的には、この地区全体の魅力あるまちづくりに繋げていきます。



住民交流拠点施設整備

【目的】

地域に暮らす住民の住み続けることの誇り、こだわりを再認識する機会となり、中心地域のもつ歴史的な魅力を再発見し、育み、発信し、未来に継承するための拠点づくりを目指します。

- ① 交流・観光人口の拡大
- ② 世代間交流の促進
- ③ 文化、芸術の交流の促進

【整備基本方針】

- ① 町民及び観光客が多目的利用
- ② 利便性が高く、訪れた人々に安らぎを与える施設
- ③ 住田らしさを発信する施設

【施設の位置】

旧菅野家
世田米字世田米駅13番地1

【既存建物の活用考え方】

修復、耐震補強工事等を行いながら活用します。

- ① コミュニティ活動や文化芸術等の創造活動を促す
- ② 町の情報発信拠点
- ③ 文化芸術活動に触れる
- ④ 町外からの誘客を促す

中心地区の保存・修景計画

- ① 歴史的な町並みを活用したまちづくりを進めます。

- ・住民意識の醸成
 - ・伝統的建造物の保存
 - ・伝統技術者の養成
- ② まちづくりの基本姿勢
「住んでよし訪れてよし」
住民主体のまちづくり

- ③ 保存地区、修景地区の設定

(仮称)花の森公園整備基本計画

住田町の森林・林業の町を代表する場所、世田米地区の景観と町の背景として、花の森公園(仮称)の整備を検討します。川向から世田米駅を望むと、気仙川、土蔵、町家、山の順に並んでいます。町家の保存整備を主として掲げていますが、その町家のキャンパスとなる山も重要視していく必要があります。

